

平成30年度第1回堺市がん対策推進委員会 議事録

日 時 平成31年3月11日 14時00分から
場 所 堺市役所 本館6階 会議室
出席者 高杉会長、平松副会長、安宅委員、大石委員、大里委員、岡原委員、奥村委員、
小田委員、桂委員、金丸委員、久保委員、倉都委員、阪田委員、松原委員、
水谷委員、南埜委員、森委員

- 1 委嘱書交付
- 2 挨拶 堺市健康福祉局長
- 3 委員紹介
- 4 会議録署名委員について、規則第6条第2項に基づき会長が指名
会議録署名委員 市民公募委員 水谷委員
- 5 案件1 堺市のがん検診受診率向上強化への取り組み状況について
 - ・①堺市、保健センター、②がん診療拠点病院、地域医療機関、③患者会など、④学校、
企業など、横のつながりを活かし、強化事業を展開。
 - ・「がん検診総合相談センター」の取り組み内容について、平成29年6月に設置し、
未受診者の受診勧奨や検診案内を実施。問い合わせ窓口の一元化を実施。
 - ・がん検診受診率の推移について（平成27年度～平成29年度）
「市民の方が受診しやすい環境の整備」、「啓発の強化」、「個別勧奨の強化」の推進に
よる相乗効果により、受診率向上を加速させたい。平成30年度、31年度の2年間
については、「受診促進強化期間」として自己負担金の無償化を実施。

【質疑・意見】

・安宅委員

総合相談センターですが、問い合わせ対応マニュアルで改善しているものはありますか。実際に相談支援をされてどういう事例があったのかという実績があれば教えていただければと思います。

・事務局

医療系の相談は少なく、がん検診の受け方とか、基本的な質問をされるケースが一番多いです。マニュアルというのはFAQのことですが、FAQを随時追加し、充実させています。架電については、トークスクリプト（台本）を作成し、内容を指導しています。

・会長

架電の対象者というのは、どういう風に決めているのですか。

・事務局

過去にがん検診を受診し、受診票に電話番号を書いた方になります。過去5年の間に受診した方、強化している年代は、69歳以下を対象にしています。

・会長

節目年齢の50歳などは、住民票からピックアップされているのですか。

・事務局

個別勧奨送付は、20、30、40、50、60、65歳及び不定期受診者です。年齢で送る方は住民票です。

・岡原委員

架電による勧奨は、「いくつかの検診全ての検診を受けてください。」と言っているのですか。どういう内容でしょうか。

・事務局

年齢等も分かっていますので、受診できるすべての検診をご案内しています。

・会長

受ける医療機関を予約するようなものですか。

・事務局

集団検診の予約は、コールセンターで行います。個別検診になる場合は、お近くの医療機関など、相談しながらご案内しています。

・南埜委員

堺市の受診率は出ていますが、他の政令市と比べて、堺市はどのあたりかというのと、目標は何パーセントとしているのか、ということをお教えください。

・事務局

他市の比較は今確認しているところです。堺市で実施している検診の率と、『健康さかい21』の職域も含めた率もありますが、目標としては、『健康さかい21』の方では50%を目標としています。実際のアンケートの結果では胃が44.3%、肺が50.4%、大腸が46.2%、子宮が46.9%、乳が45%となっており、こ

こを上げていくということで言いますと、啓発活動や風土作りなども必要かと思っています。

- ・事務局

補足すると、アンケートは職域を含めた状況、一方で一般的に使われているがん検診の受診率は、職域の方を除いた国民健康保険の方を中心とした数になります。それで申し上げますと、大阪府の平均より少し低いくらいです。受診率の方は上がってまして、我々の目標は、全国平均が19.8%というのがあり、今年度の目標としては全国平均の約20%としています。

- ・事務局

こちらに載せているのは、堺市の全年齢の受診率ですが、まずこれについては、堺市の中で平成27年度からどのように動いているのか、その動きが一番分かりやすい形で資料を出させていただいています。本当の意味の受診率は、職域を含めてどれだけ受けているか、国民健康保険の方がどれだけ受けていただいているか、全部を含めた受診率が一番の受診率だと思っています。職域で受けている方は、堺市民であっても勤め先で受けているとか、都道府県もまたいで受けていたりしますので、国も色々議論されていますが、はっきりと掴みきれないところであります。今後、受診率も大事な部分ですので、全国的な位置を確認できる形で作っていきたいと思っています。

- ・会長

国保を中心とした18%前後の受診率とおっしゃっていただいたんですが、ここに書かれている数字4%とか5%とか、この数字との関係を教えていただきたい。

- ・事務局

こちらの方に書かせていただいているのは、全年齢の受診率となっています。実際の対象となっている方の国保中心の方を書かせていただいております。これは人口から就業者数を引いて農林水産業人数を含めた対象としていますが、年齢に関わらず掲載させていただいているのが、この受診率の対象となっております。

さきほど、全国平均18%と申し上げたのは、69歳以下の方を対象とした受診率となっており、がん検診の受診率の定義がいろいろあり、資料は全年齢の受診率を書かせていただきまして、さきほど私が申し上げたのは69歳以下の受診率ということになっています。

あと、国の受診率の定義の方が変わってまいりまして、平成29年度以降は全人口

という形になっています。まだ具体的な数値は申し上げられないですが、定義が変わってきているということをご認識いただけたらと思います。

- 水谷委員

職場の健康診断の受診についてですが、ぼくが健康診断を受けるときにはオプションでがん検診を受けるようにしてるんです。それは母親がなったというのもありますし、こうした委員にも入れさせてもらったというのもあるので、オプションでやっておこうと思ってやっています。「がん検診なんて受けんでも良いよ。分かったらえらいこっちゃ」と言って受けない人もいます。堺市外から来ている人もいて、健康診断は受けなければならないから、がん検診も受けてるか受けていないか関わらず、がん検診も入ってるのでしょうか。

- 事務局

水谷委員からご質問ですが、健康診断の分は入っておりません。あくまで市がやっていますがん検診だけになります。冒頭申し上げました、50%の目標のアンケートの方で40%程度という話がありましたが、そちらの分については、そういったものも含めて、がん検診を受けましたか、と聞かさせてもらっているということです。

- 会長

平成28～29年を比べると、例えば大腸がんに関しては一番高かったのは、平成27年度で、子宮がんに関しては横ばい、一生懸命勸奨をされながら横ばいや減ったというのは、何か心理的に受診者に何かあるのでしょうか。

- 事務局

大腸がんについては平成27年度が14.2%で平成28年度が12.2%と2ポイント下がっています。無料クーポンが平成27年度まであり、40歳から60歳の5歳刻みで個別に発送していました。それが平成27年度までのため、平成28年度には少し落としている状況です。

- 奥村委員

総合相談センターの取り組みについて、受診のモチベーションをどう上げるのか、ということが問われるので、早く検診を受けて良かったという事例をご紹介した方が良いのではないかと思います。

- 会長

ありがとうございました。相談に関するアドバイスについて、是非ご参考にしていた

だけると良いかと思えます。

次回から受診した人が結果どうだったか、精密検査をどれくらい受けたかといったデータもお示しいただきたいと思えます。

- ・水谷委員

小中学校の啓発について、どういったことを行うのでしょうか。

- ・事務局

小学校6年生と中学校3年生には、堺市では教育のなかに位置付け、同じマニュアルを使い必ず健康教育をしないといけないことになっています。また合わせて保健センターでは、全校ではありませんが保護者を対象に健康教育に行く場合もあります。教育委員会と連携しながらこれらの健康教育を行っているところです。

- ・大里委員

当院では西区を中心に小学校などに啓発をしています。子どもが親に伝えるケースもあり啓発が進んでいることもあると思えますが、企画をするにあたって、我々がなかなか教育委員会と連携するのが難しい面もあります。市としても、がん教育を小中学校に対して企画していくのであれば、教育委員会も含めてやっていただいて、これについて教育委員会を上げてやっていくという、もう少し協力していただくのが筋じゃないかと思えます。教育の場に医療者が行っていかに教育し授業を進めていくかと言われているので、いかがでしょうか。

- ・事務局

教育委員会との連携ですが、『健康さかい21』では教育委員会に参加してもらい、随時調整をしています。この会議でも出席してもらいたいという意見があったことについては共有させていただき、検討させていただきたいと思えます。

- ・小田委員

学校では学校医と学校薬剤師もいます。学校医の先生は、がん教育でも来ていただいています。学校薬剤師にもがんの教育をしていただけたらありがたいと思えます。

- ・南埜委員

教育機関との連携をされているとお聞きしましたが、特にPTAの40代50代が対象年齢の人と思えますので、PTAに対して強めていただいたら良いと思えます。

PTAに勧めて、検診に行きたいという人もいますし、ご自宅にもっと上の世代もいることもありますので、そこも含めて啓発していただいたら、もっと良くなるのではないかと思えます。

- ・事務局

対象年齢にどうアプローチしていくのかは大きな課題です。ご意見を踏まえて調整したいと思います。少しずつではありますが、PTA の集まる場など、働く親が参加される機会に、保健センターから職員が出向いて説明するなど、連携が出来つつありますので、また工夫をしながら進めたいと思います。

- ・森委員

がん検診を受けるにあたって、見つかったらどうしようという人もいます。昔と違い、がん医療が進んでこれから先、どんどん治癒率が上がっていくということが見込めるようになってきましたので、勸奨する際には言って頂きたいです。また、がんを抱えながら治療と就労の両立にも向かっていますので、そういった社会の体制が整いつつあるということもお伝えいただいて、モチベーションを上げるための勸奨に役立てて頂きたいと思います。

- ・倉都委員

年間のはがき発送の件数が出ていますが、これは延べ人数が出ているのでしょうか。

- ・事務局

はがきを送った人については、第14弾までありますが、重複した方を省き、一度送った方には送らないこととしています。はがきは、延べ人数ではありません。

- ・倉都委員

一度送った方に、もう一度送るというのも、良い方法かと思ったのですが。

- ・事務局

当年度は一回ですが、その一回はコールリコールの手法を取っています。同じ年度にもう一度送るということは、今後検証しても良いかと思います。

- ・金丸委員

12、13、14弾は同じ日付で送っているようですが、別の人に送っているということですか。

- ・事務局

リストを抽出する際に、何年度に何の検診を受けたかで抽出しています。同日になっているのは、はがきの発送日が同じだけど、対象者が異なります。

- ・ 阪田委員

がん検診総合相談センターですが、世間で芸能人の方などが、がんになったら話題になります。口腔がんが話題になったと思うんですけど、口腔がんの問い合わせがあったかということと、無償化2年と受診率向上の取り組みについて、マイナーながん、発生率の低いがんにも実施していく流れかということをお聞きしたいです。

- ・ 事務局

口腔がんに関する問い合わせの件数ですが、2件問い合わせがあったと聞いております。白血病であるとか、口腔がんなど話題になりましたが、お問い合わせがあった際には、適切な窓口に繋いだり、窓口が分からなければ、市に繋いでもらって対応しています。

- ・ 会長

検診の制度としては、5がんを対象にしていますが、他について問い合わせはあっても、検診の対象にはならないということですね。そういう相談があれば、診療機関を案内していくということしか、今のところは市としては全国的にもやっていないということですね。それでいいですか。

- ・ 事務局

基本的には5つのがんということで、市では国の指針に基づいてやっています。

- ・ 水谷委員

スーパー、町内会のポスターなどで、がん検診無料と見かけることがあって、それでこうやって伸びているんだなあと感じるんですが、この数字の裏に、受けている人以外に、本当は受けなきゃいけないのに受けていない、結果的に重症になってしまう人をどうやって救い出すべきなのか、というのがすごく大切なことだと思います。この数字はすごく良いことだと思いますけど、検診を受けてがんが見つかったらどうするんよ、とか早期で治療を受けたら治っていくということを書いてもらったりするけど、受けない人をどうやって救うか、そのあたりを健康教育とかで考えてもらえればと思います。

- ・ 会長

一般の方のアンケートを見るなかで、検診を受けてがんと言われたらかなわん、仕事やめないといけないかもしれないから受けたくない、とか、水谷委員がおっしゃった通りの方が多くいらっしゃる。そこは、センターへの相談、あるいは検診を進めるにあたって、早期発見の大切さを何度も言わないと、一般の人は、怖いと思う人がいるので、繰り返し繰り返し、検診の効果について啓発していかなければならないと思います。

- ・事務局

がん検診の受診率が上がれば良いというだけの問題ではなくて、がんの理解をしていただくことも、保健センターの専門職ががんのケアをするということも、そういうことになるのかなと思います。患者会さんと一緒に地域に出向かせていただいて、患者さんの経験されたお話や、そのあとで専門的な話もして、がん検診を受けてくださいということに繋げていって、結果としてがん検診の受診率を上げていくというところが大事なことかと思っています。また、専門的な医師と、保健センターと一緒にいくことで、専門家の先生方にお話しいただき、正しい知識を入れていただいて、検診を受けることに繋げるのも重要かと思っています。

- ・大石委員

私たちは乳がんの患者会なのですが、最近は5大がんだけでなく、すべてのがんについて、この早期発見によって、後々の生活や仕事が変わっていくということを強く訴えています。今年度の高濃度乳房の件で、今まで毎年検診に行っていた方が、自分が高濃度乳房だということを初めて知ったという方がいて、エコーを受けに行きました。そしたら、がんが見つかって、治療に入られるとのことでした。その方が、ぼろぼろ泣きながら、この制度を取り入れてくださった堺市に感謝しますと、本当に生の声、その方とご主人とお子さんと3人でいらっしやって聞かせてもらいましたが、ご主人も泣いて喜んでいました。とりあえず、この5大がんだけでなく、希少がんに関する情報、私は医療従事者ではないので、詳しいことは言えませんが、早期発見、自分の体をちゃんと見つめなおしてほしいと、後回しにしないでほしいということを常に伝えております。

どんながんでも、病気全般に言えることですが、早く見つければ治療も短くなるし、乳がんは早期発見でほとんどが元気になるということも伝えて、もっと情報発信をさせて頂きたいと思いますので、よろしくお願いします。

- ・会長

堺市さん、今後とも頑張って頂きたいと思います。総合センターで5がん以外の件についても相談がありましたら、親切に対応をよろしくお願ひしたいと思ひます。

6 案件2 その他について

- ・健康増進法の一部改正に伴い、条例の受動喫煙の記載について、改正を行った。

本条例は健康増進法の一部を改正する法律附則第1条第2号について、平成31年1月24日から施行。

- ・現在大阪府議会において審議されている大阪府受動喫煙防止条例案の概要について

- ・会長

法律と大阪府の条例とは違って、さらに強化していく話でございますが、何かご意見はありますか。なければ、これで終了いたします。ありがとうございました。